

研究の概要

1 研究テーマ

将来にわたり、食生活をよりよくしていこうとする生徒の育成
－「日常食の調理」の実践化に向けて－

2 研究テーマ設定の理由

(1) 生徒を取り巻く「食」の現状

私たちは食べることで生命を維持し、心身の健康を保っています。しかし、飽食の現代に生きる私たちは、食べることで逆に健康を損ね、生命を脅かすことになり兼ねない状況でもあります。栄養の偏り、肥満と痩身などの問題に加え、偏った健康志向、食事の外食化、食のモラルの低下など、食に関する問題は多岐に渡り深刻化する一方です。その中でも気になるのが、安さや便利さばかりを追い求めた結果、食の安全・安心は置き去りにになっている点です。食生活においても好ましい食習慣が身に付いている生徒とそうでない生徒の二極化は顕著であり、学校全体で取り組む食育においてもこの問題は大きいといえます。

(2) 内容「B食生活と自立」における生徒の実態

内容「B食生活と自立」の学習については、授業に取り組む姿勢から、生徒たちは興味・関心が高いといえるでしょう。「食品の選択」や「日常食の調理」の学習には特に意欲的に取り組む様子が見られますが、授業で身に付けた知識や技術が、家庭での実践につながりにくいという大きな課題があります。その結果、学習内容の定着も十分とはいえない状況です。家庭環境が様々であること、部活動や塾などで時間に余裕がない生徒が多いことなども実践につながりにくい原因として考えられます。

(3) 身に付けさせたい力

そこで、健康的で安全な食生活を築いていけるよう「基本的な調理ができる」ための知識や技術の定着を図って自信をもたせ、生徒それぞれが置かれている状況の中で、学習した内容を基に工夫して実践しようとする意欲につなげていき、能力として身に付けさせたいと思い、今回の研究主題を設定しました。

3 研究のねらい

本研究では、「日常食の調理」に焦点を絞り、「中学校の調理実習後の実践」についての実態調査を基に題材計画を作成しました。生徒の実態に合った調理例を選択し、調理実習後の家庭等での実践につながるような方策を考えました。また題材を通して自分の食生活に課題意識をもたせることにより、主体的に学習に取り組むように仕組みました。これらの学習にスパイラルに取り組ませることで、生徒それぞれが自分の置かれている家庭環境等の条件の中で、学習したことを基に工夫して実践していける能力と態度を育てようと考えました。将来にわたり、課題をもって生活をよりよくしよう

とする能力と態度を育成していくことは、「21世紀型能力」としてあげられている「基礎力」「思考力」「実践力」を育むことにもなると考えます(図1)。

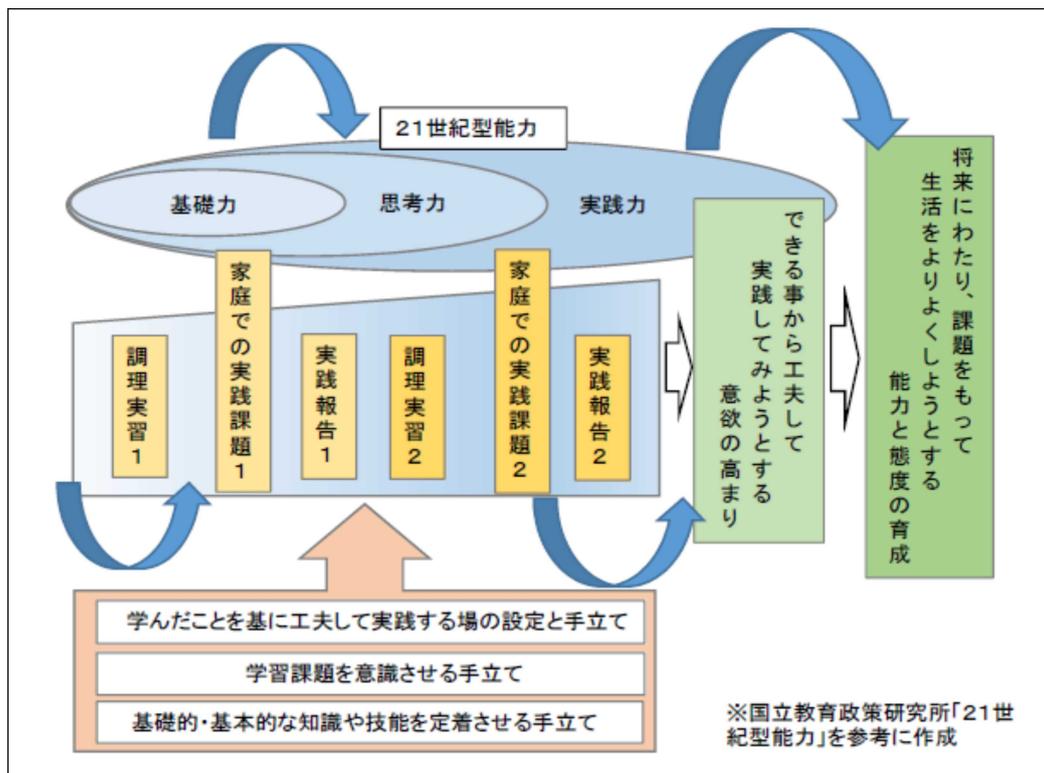


図1 研究の構図

4 研究方法

(1) 中学生、高校生、大学生を対象とした実態調査の分析

中学生、高校生、大学生を対象とした「中学校の調理実習後の実践」についての実態調査を行い、分析しました。

(2) 理論研究と題材計画の作成

中学生、高校生、大学生を対象とした実態調査の分析や研究紀要・文献を基に、調理の基礎基本が身に付き調理実習後の実践につながる効果的な「日常食の調理」についての理論研究を行い、題材計画を作成しました。

(3) 中学1年生での「日常食の調理」の検証授業

中学1年生を対象に、「日常食の調理」において、自分の食生活の課題を意識しながら食生活をよりよくしていこうとする意欲と実践力を高めるための授業を検証しました。

(4) 題材やワークシートの開発

学んだ知識や技術を定着させると同時に、今後の自分の食生活をイメージしながら継続的な実践につなげるための題材やワークシート等を開発しました。